

番号
名前

① 次の文章を読み、後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に記入すること)

発表当時はまるで問題にされなかった作品が三十年、五十年後には古典として扱われるようになることがすくなくない。へイ、あられれると、たちまち話題作になり、一世を風靡したのに、いつとはなしに忘れられるが、少し細かく考えると、時間と空間が作品に及ぼす作用の結果が評価の消長という形をとるのだと解することもできるようになる。作品という表現が、「2」、すなわち歴史的世界と、「3」、すなわち社会的世界の移動してゆくとき、この二つの世界に対して全く何の影響も与えないということはない。へロ、二つの世界もまったく死んだ空白なのではなく、作品に対して目に見えない作用を及ぼす。作品は嫌うと好まざるとにかかわらず、それを受けて、すこしずつ変貌する。評価の変遷はその一部のあらわれである。作品が印刷されているとき、テクストの本文はたやすく改変されることがないから、時間と空間の作用は本文の変化にあらわれるのではなく、その作品を見る視点や解釈の枠組みに及び、それを通じての変化をおこす。時間と空間はもちろん「4」存在ではなく、背後にはつねに人間が控えている。ただ、その人間が作者のように特定の個人ではなく、不特定多数の集団である。そういう社会的現象をここに仮に、「X」と呼んだ。

コピー、すなわち異本は、この時間と空間が生み出すものである。しかも、コピーがまったく「5」、機械的なコピーならともかく、「6」なコピーであれば、必ず原形とは違ったものになるはずである。原形から時間的、空間的距離が大きくなればなるほど、へハ、異本との差異も大きくなる。文学史上の古い作品はかなり大きな異同をもつ異本群にかまれているのが普通である。

へニ、作品はそのままの形では生き残れないということである。書物の形をしている作品が後世に伝えられる場合、外形的にはもとのままのものが存続しているように見えるが、それをとりまく社会や歴史の条件が変わっている。読者が変化してしまえば、同じ本が同じように読まれない。目に見えない異本になっている。口 誦文芸の時代には形に見えない異本になる必要がなかった。異本はすべてはつきり形にあらわれたからである。異本をつくる力のない原形には忘失の運命が待っている。異本は生命力のあかしである。文字を用いるようになって、この異本の自由な発動が抑えられるようになり、さらに印刷が一般的になって、異本は目の敵にされるに至った。

テクストの改変、存否にかかわる異本化のエネルギーは表面から姿を消して、作品の解釈、批判の形をとる。新しい角度から作品をながめると、従来とはまったく違った意味が浮かび上がる。A へホ、この方が、本文の一部を改修するいわゆる異本よりもはるかにほげしい異本でありうる。《Y》では、異本概念をもっと拡大して考える必要がある。B 本文の異同にあらわれる形式的異本のほかに、本文はそのままながら解釈方法が変化して生み出す内質的異本のあることに注意しなくてはならない。C もしこれを排除するならば、作品は物理的存在に還元されてしまうであろう。くりかえしになるが、作品が人間の心の中で生き続けて行くには、広義の異本によるほかはない。時間と空間の作用を受けると作品は変化する。それを立証するのが異本であって、本文の変化をとまなわれない。解釈による内質的異本の多くなっていく現在においても、異本は作品の生命の客観的相関物である。

(外山滋比古『異本論』より)

注1 同一の書物であるが、通常の本文とは大きく異同のあるもの。
注2 記載文芸ともいい、文字で書かれた文芸に対する概念で、口伝えて伝承される文芸のこと。

問一 へイ、へハ、へニに入れるものを、次の中から選び符号で記せ。

- 1 それに比例し
- 2 その反面
- 3 そのかわり
- 4 もちろん

問二 「1」「3」に入れるのに最も適切なものを、次の中から選び符号で記せ。

- a 人間
- b 時間
- c 空間
- d 運命
- e 終焉

問三 形式第一段落に、過って用いられている語がある。それを抜き出し正しく直せ。

問四 「4」「6」に入れるのに適切な語句を、次の中から選び符号で記せ。

- ア 一般的
- イ 物理的
- ウ 人間的
- エ 無機的

問五へニくくへホへに入れるものを、次の中から選び符号で記せ。

- 1 ときとしては
- 2 逆に言えば
- 3 果たして

問六《X》に入れる最も適切なものはどれか、次の中から選び符号で記せ。

- 1 テクストの本文
- 2 解釈の枠組み
- 3 時間と空間

問七 次の一文はどこに入るか。文中にあるA、B、Cから選び、符号で記せ。

形式的異本は望ましくないものとして否定されているが、現代においても内質的異本まで否定されているわけではない。

問八《Y》に入れる最も適切なものを、次の中から選び符号で記せ。

- イ 古典文学
- ロ 中世文学
- ハ 近代文学

Ⅱ 次の1く5の作家の書いた作品を、後群のaくeの中から選び符号で記せ。(解答はすべて解答用紙に記入すること)

- 1 芥川龍之介
- 2 石川啄木
- 3 川端康成
- 4 与謝野晶子
- 5 遠藤周作
- a 乱れ髪
- b 雪国
- c 一握の砂
- d 沈黙
- e 羅生門

Ⅲ 次の文章を読み、傍線①く⑤のカタカナを漢字に直し、またAくDに入るものを、後群アくシ中から選び、符号で記せ。(解答はすべて解答用紙に記入すること)

コロナの猛威で忘れかけていたが、①チヨッキンの冬は常ならぬ暖冬だった。相前後してアフリカでは多雨でバツタが大量発生し、豪州では森林火災が広がった。これらを端的に説明できる気象用語がある▼「インド洋ダイポールモード現象」がそれである気象学が専門の海洋研究開発機構の研究者、土井威志さん(38)は「ひと言でいえばインド洋のへAへ現象です」と語る▼ダイポールとは正と負の「双極子」を指す。インド洋の東西で大きな海水温差が生じたとき、異常気象を引き起こす。昨年は過去最大級の水温差が生じ、しかもそれが越年した。インド洋西側の国々は水害に見舞われ、東側はカラカラ天気^{ちやうよくしやま}に苦しんだ。「B」を北へ押し上げて、日本に記録的な暖冬をもたらした▼「気象はつきつめれば空と海の助け合いです」と土井さん。ダイポール現象が起きるのは数年に一度とされる。インド洋の水温を②ハアクし、予測の精度を高めるためのC「様々な試みをくり返し、失敗しながら目的地に近づいてゆくこと」が続く。ちなみに今夏もまた、ダイポール現象の影響で日本は雨の多い猛暑になるという▼はるかアフリカのバツタと日本の暖冬が③ドウコンだったとは驚きである。異変を何ヶ月も前に④サッチできれば、世界中でD「人よりまえに行うこと。敵より前に攻撃し、有利な位置を占めること」を打ちやすくなる。たとえば南アフリカでは、マラリアの発症時期を予測し、殺虫剤を効果的に⑤サンブできるそうだが▼今年も水害が心配な季節がめぐってきた。コロナ禍で「自国第一主義」の無力さを知ったいま、異常気象への備えは地球規模ですすめたいものである。

(「天声人語」令和二 六・一八)

注1 大きさが等しく符号が反対の単極が、ある距離を隔てて配置された電荷または磁極。

問一へAへへに入る最も適切なものを、次の中から選び符号で記せ。

- ア エルニーニョ現象
- イ ラニーニャ現象
- ウ ソルヒーユ現象

問二「B」に入る最も適切なものを、次の中から選び符号で記せ。

- エ 貿易風
- オ 偏西風
- カ 馬耳東風

問三 CとDカッコの意味内容と一致するものを、次の中から選び、符号で記せ。

- キ 紆余曲折
- ク 驚天動地
- ケ 試行錯誤
- コ 前面
- カ 標的
- シ 先手

問四 第一次世界大戦中に、ヨーロッパから世界中に流行した伝染力の強い感冒の名称を書け。

配点

Ⅰ

問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
Y		X	ニ	4	(誤) ↓ ↓ ↓ (正)	1	イ
			ホ	5		2	ロ
				6		3	ハ

Ⅱ

1
2
3
4
5

Ⅲ

問四	問三	問二	問一	①
	C	B	A	
	D			
				②
				③
				④
				⑤

番号
名前

配点

問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
Y ハ	C	X 3	ニ 2	4 イ	(誤) 嫌 う ↓ (正) 好 む	1 d	イ 2
4点	4点	4点	ホ 1	5 エ	3点×3 9点	2 b	ロ 3
			3点×2 6点	6 ウ	4点	3 c	ハ 1
				3点×3 9点		3点×3 9点	3点×3 9点

1 e
2 c
3 b
4 a
5 d

3点×5
15点

問四	問三	問二	問一	① 直近
スペイン風邪 かぜ、 カゼ	C ケ	B オ	A ア	4点 4点
	D シ	4点		
5点	4点×2 8点			② 把握
				③ 同根
				④ 察知
				⑤ 散布

3点×5
15点